

地域間の相互連携が勧められるように、行政が橋渡しを担うことで、地域を超えた他職種ネットワークの構築を目指す

- ・機能別医療機関名の公開により、連携促進を目指す
- ・平成23年8月から運営しているサイト「がん情報とちぎ」での療養に関する地域情報の公開

また、がん対策として、予防や検診制度の重要性が述べられるとともに、「患者必携」など適切な情報ツールを相談支援センターなどで活用することで緩和ケアや相談支援体制の一層の充実を目指すことなどが述べられた。

次に、栃木県立がんセンター院長清水秀昭氏より、都道府県がん診療連携拠点病院の立場から、行政の動きと呼応した現場での動きについて紹介がなされた。

地域保健センターを核にして、ケアサービスや地域の医療機関のスタッフ、行政関係者を対象に講習会や研修会を実施し、「患者必携」を用いた情報提供の紹介や他職種でのグループワークを実施し、アンケートで参加者からの声を都度収集していること、地域に行くほど「介護」に関する情報ニーズが高まるため、拠点病院、在宅医療が互いに専門性・役割の違いを念頭に置いて交流することの必要性が述べられた。

また、既に作成されている「地域の療養情報」について今後がん診療連携協議会傘下の相談支援部会でその位置付けや内容の見直しを行っていくこと、予算面では行政と連携し、サポートを得ながら進めることが報告され、今後は、患者や医療、行政に加え、議会やマスコミ、教育企業などを含めた複数のステークホルダーが一体となって協働をはかる構想について述べられた。

2) 広島県がん患者さんのための「地域の療養情報」サポートブック作成の取り組み

県立広島病院臨床腫瘍科篠崎勝則氏より、「地域の療養情報」サポートブックを作成するまでの経緯と「患者必携」の活用の取り組みについて紹介がなされた。

引き続き県がん対策課児島佳樹氏より、県内での議論の経緯の報告がなされ、相談支援センターで情報提供がなされるが、それを一元化して提供することへの県としての主体的に関わりについて紹介された。

3) 地域で作る沖縄県版「地域の療養情報」『おきなわ がんサポートハンドブック ちむぐくるおきなわ』

琉球大学医学部附属病院がんセンター長増田昌人氏より、沖縄県の診療連携協議会発足と『おきなわ がんサポートハンドブック ちむぐくるおきなわ』作成の経緯について紹介がなされた。

- ・診療連携協議会発足の経緯

沖縄県は本島の3医療圏（北部、中部、南部）および宮古医療圏、八重山医療圏の計5つの医療圏で成る。当初は中部、南部および琉球大学病院でがん診療連携協議会が発足したが、政策提言および地域医療再生基金の活用を経て支援制度が確立し、2010年に県立八重山病院（八重山医療圏）、県立宮古病院（宮古医療圏）および北部医師会病院が支援病院として認定に至り、現在のがん診療連携協議会は6つの病院と沖縄県で組織されている。また、その下に幹事会および7つの専門部会が置かれている。

- ・がん診療連携協議会の構成委員

県拠点病院および地域拠点病院の院長および副院長、副知事担当の県政策参与、福祉保健部長、医師会長・副会長、歯科医師会長、薬剤師会長、看護協会長、乳がん専門医、患者関係委員（患者、家族、遺族）、その他有識者として国の協議会の委員やジャーナリストで組織されている。

・『おきなわ がんサポートハンドブック ちむぐるおきなわ』の作成

がん診療連携協議会および6つの専門部会、患者会、県の健康福祉部などの協力のもと、相談支援部会を中心に患者会で内容の訂正・見直しを行うなど患者の視点を取り入れながら、先に試作版を作成していた4県（茨城、栃木、静岡、愛媛）の情報は網羅しつつ地域としてニーズの高いと思われた11のコンテンツを追加して作成された。初版は県の地域医療再生計画の予算を受け、健康福祉部およびがん患者連合会（県内にある23の患者会のうち10団体が集まって構成）に参画いただき、第2版では一般病院のMSWや看護師などの協力も得ながら2万部を発刊し、2011年4月より患者会、自治体、福祉保健所、医療施設およびすべての市町村に配布をし、5月から拠点病院を中心にがん患者および家族に無料で配布を行っている。基本的には通院先の医療機関から、一般の方には県庁か最寄りの福祉保健所からの配布を行うなど普及においても行政と協働した取り組みを行っている。

第2部ワークショップ（事例報告）

「地域における情報発信とがん患者支援に向けて」

テーマ1）地域における情報づくりの課題と工夫

テーマ2）地域における患者・住民と医療現場、行政との協働に向けて

地域ブロック（北海道東北、北関東、東京、南関東、東海、北陸、近畿、中国四国、九州沖縄）で8班に分かれて上記テーマについてディスカッションを行い、その後、各班で話題に上がった内容を全体共有した。地域における情報発信とがん患者支援に向けた課題や解決の方向性としてあげられた主な意見は下記のとおりである。

地域における情報発信の取り組みにおける課題

〔必要な情報の選定〕 必要な情報は患者個々によってさまざまである中で、患者・家族に伝えるべきことをどう絞るか

〔普及〕 媒体を作ったけれども活用されないのでは本末転倒。配布における適切な方法・場所をどう検討するか

〔情報の更新〕 情報媒体の更新に向けて、既存の媒体の評価をどう行うか

〔情報が届きにくい方たちへの配慮〕 高齢者や障がい者、インターネットを使えない方への配慮

〔費用面〕 作成に関わる費用や印刷部数などの調整

解決に向けて工夫

〔普及〕 インターネットと紙媒体とを組み合わせた情報発信／医療者からの声かけの意味は大きく、医療現場との連携の必要性／情報ツールを作成する際に、その運用・普及方法も一緒に検討する

〔必要な情報を届けるために〕 冊子で完結させるのではなく、まず相談窓口へつなぎ、

そこから個別的、専門的な情報につなぐことが望ましいのでは

〔情報の評価〕 アンケート等で患者さんの評価をフィードバックすることで質の担保につながるのでは

〔必要な情報の絞り方〕 相談支援部会などで患者会と協働してニーズを拾う

4-4. 参加者からの声（当日アンケート結果より。詳細は次ページ以降参照）

〔各地域の取り組みについて〕

- ・ 県内の取り組みを知ることで、自県の方向性も見えた気がする。県内にフィードバックしたい
- ・ 先駆的な地域の取り組みを学べて参考になった
- ・ 地域によって行政主体でうまく協働できているところ、協議会主体で取り組んでいるところなど特徴があることが分かった
- ・ がん医療を変えたいと思う他職種の人に会えて有意義だった

〔地域での連携・体制づくりについて〕

- ・ 県行政、患者会、病院との協働の必要性を強く感じた
- ・ 情報ツール、資源をどう活用していけるか、地域からどう体制を作るか、今後の課題として取り組みたい
- ・ 行動力のあるキーパーソンが必要では
- ・ 行政の協力が大きい。医療者としても刺激を受けた。

がん臨床研究推進事業 研修会

患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて 地域における情報発信とがん患者支援

がん患者さんの療養生活の質の向上をめざして、治療だけでなく療養生活を含めた、地域における社会的支援の活用を促す取り組みを収集し、普及する動きが広がっています。がん患者さんの支援の輪を「みんなでつくる、地域で支える」ために、どのような取り組みが求められるのでしょうか。地域における情報づくりと普及に向けた活動をとおして、望ましい協働のあり方について議論を行います。

2011年11月11日(金)

13:00~16:30 [開場12:30~]

会場：〒104-0061 東京都中央区銀座6-17-2 ビルネット館2号館

TKP銀座ビジネスセンター8階 カンファレンス8B室

対象：行政担当者、研究者、医療従事者、情報提供・相談支援関係者

参加要項

参加ご希望の方は、FAXあるいはメールにてお申し込みください。

○FAX：03-3547-8577

○メール：HikkeiSupportTeam@ml.res.ncc.go.jp

(氏名、所属、連絡先、メールアドレスをご記入の上、「研修会『患者必携 地域の療養情報』の提供に向けて 参加希望」とお書きください)

■申込者数が定員を超過したことにより参加をお断りする場合のみ、事務局からご連絡いたします。

*記載された個人情報は本事業のみに使用します。

■参加費 無料

■定員 60名

■申込期限 平成23年10月28日(金)

(定員になり次第、申込み受付を締め切らせていただきます。)

■お問い合わせ

国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報提供研究部 渡邊

FAX：03-3547-8577

E-mail：HikkeiSupportTeam@ml.res.ncc.go.jp



主催：厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)
地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデル
の作成に関する研究班
共催：財団法人 日本対がん協会

プログラム

開会の挨拶・趣旨説明 13:00 ~ 13:20

渡邊清高(国立がん研究センターがん対策情報センター)

第1部

13:20 ~ 14:50

研修会

「患者必携『地域の療養情報』の提供に向けて
地域における情報発信とがん患者支援」

事例報告

- 1) 清水 秀昭(栃木県立がんセンター・病院長)
渡辺 晃紀(栃木県保健福祉部健康増進課・課長補佐)
「栃木県におけるがん情報の普及の取り組み(仮)」
- 2) 篠崎 勝則(県立広島病院・腫瘍内科科長)
児島 佳樹(広島県健康福祉局がん対策課)
「広島県における地域の療養情報作成の取り組み(仮)」
- 3) 増田 昌人(琉球大学医学部附属病院がんセンター・センター長)
「地域で作る沖縄県版『地域の療養情報』(仮)」

休憩

第2部

15:00 ~ 16:20

ワークショップ

地域における情報発信とがん患者支援に向けて
(参加者全員で、グループディスカッションを行います)

テーマ1) 地域における情報づくりの課題と工夫

テーマ2) 患者・住民と医療現場、行政との協働に向けて

総合討論

まとめ・閉会の挨拶

患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて 地域における情報発信とがん患者支援

趣旨説明

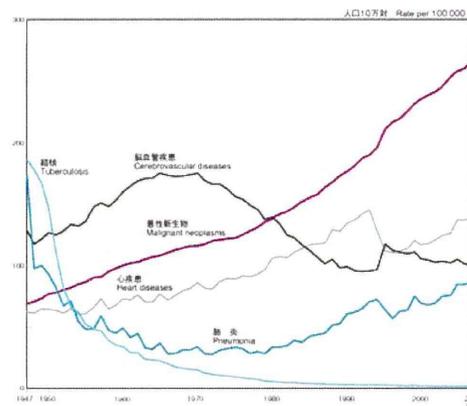
「地域におけるがん情報発信とがん患者支援」

厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)
「地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する
介入モデルの作成に関する研究」

国立がん研究センターがん対策情報センター
渡邊 清高

2011年11月11日

がんの状況



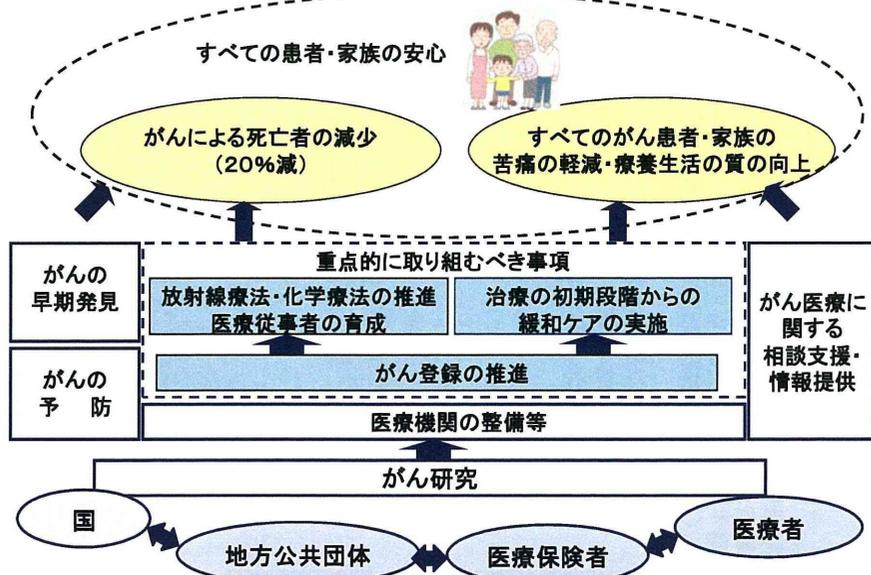
- 年間34万人の死亡
- 年間67万人が発病
- 2人に1人はがんにかかる
- 家族・親族にがん患者がいない家族は無いという状況



がんはすべての国民の問題

高齢化とともに増え続けるがん死亡
→ 国民の最大の脅威

がん対策推進基本計画 (平成19年6月策定)



患者必携とは

がん対策推進基本計画より

- インターネットの利用の有無に関わらず、得られる情報に差が生じないようにする必要のあることから、がんに関する情報を掲載したパンフレットやがん患者が必要な情報を取りまとめた**患者必携**を作成し、拠点病院等がん診療を行っている医療機関に提供していく。
- 当該パンフレットや、がんの種類による特性等も踏まえた**患者必携等**に含まれる情報をすべてのがん患者及びその家族が入手できるようにすることを目標とする。



自宅保管/持ち運び

がんと向き合うための横断的情報



A5判 携帯

書き込み式
バインダ

都道府県・地域のページを差し込み

チェックリスト
診療メモ
ダイアリー
かかりつけリスト

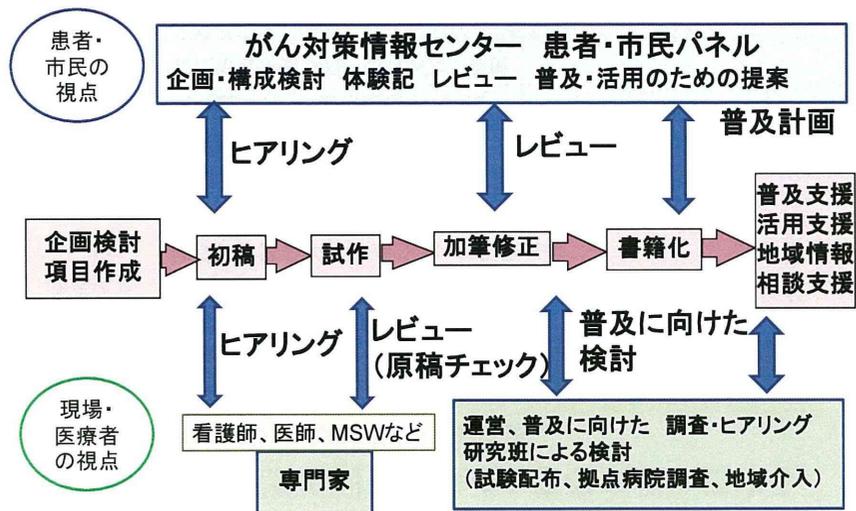


A5シート/冊子

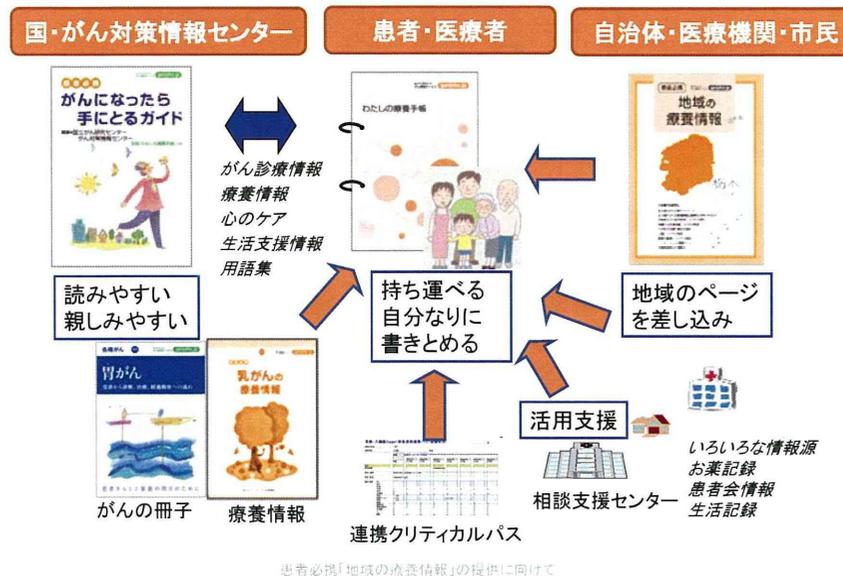
地域に特化した情報

医療機関
支援窓口

患者必携 企画～普及への取り組み



情報の「場」をつくる

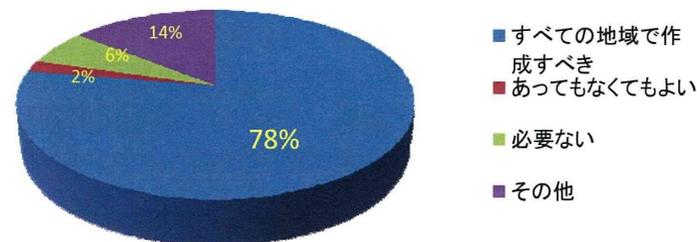


患者必携の3本柱

- がんの病状に応じた、がん医療・緩和ケア・在宅療養・介護支援等の情報
- 「参加型手帳」として自己の記録や情報に特化した部分
- 住み慣れた家庭や地域での療養を選択できるべく、**地域の特性に応じた情報**

地域の療養情報のニーズと期待

Q. 現在4県について「地域の療養情報」冊子を作成しています。今後ほかの地域でも作成すべきと思いますか。



「どうして自分の県はないのですか？」

国立がんセンターがん対策情報センター ウェブアンケート H21年12月
http://ganjoho.ncc.go.jp/public/qa_links/brochure/hikkei_index.html

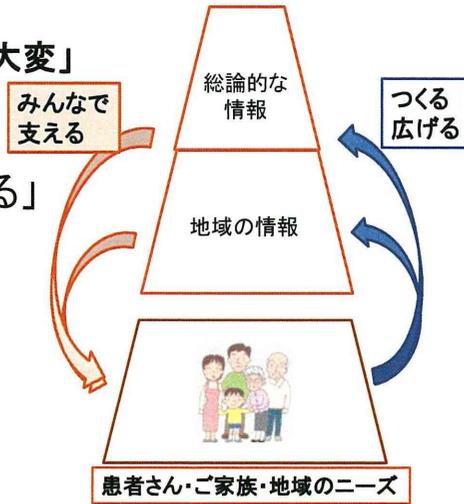
みんなで作る、地域で支える

「ニーズは明らか、でも大変」
だから...

「情報をつくる、支える」

緩和ケア
在宅医療
公的助成・支援
地域の医療機関
地域のリソース
独自の社会支援制度
患者会・ボランティア団体

歴史・風土・文化・教育・言語
気候・風俗・家族観・死生観



患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて

厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業) 分野1 主に政策分野に関する研究

- ウ. 地域におけるがん対策の推進と患者支援を目的とした研究
- ⑩ 地域におけるがん患者等社会的支援の効果的な実施に関する研究

地域のがん患者がどのような経緯でがん診療ネットワーク内を移行しているのか等**がん患者の動態**等を踏まえ、**地域**において行われるべきがん患者や家族等に対する**社会的支援**について、先駆的な介入法の事例を収集し、その**有用性に関して検証**するとともに、その成果について多くの自治体・医療機関等が参照できるような**実施モデルを作成**する研究課題であること。

患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて

平成22年度～

地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する 介入モデルの作成に関する研究

渡邊清高	国立がん研究センターがん対策情報センター 室長(研究代表者)
清水秀昭	栃木県立がんセンター 病院長
篠田雅幸	愛知県がんセンター中央病院 病院長
岡本直幸	神奈川県立がんセンター臨床研究所 がん予防情報研究部門
今井博久	国立保健医療科学院 疫学部 統括研究官
照井隆広	医療法人社団 爽秋会 岡部医院 院長
田城孝雄	順天堂大学 スポーツ健康科学部 教授
元雄良治	金沢医科大学 腫瘍内科学 教授
山口佳之	川崎医科大学 臨床腫瘍学 教授
川上公宏	香川県立中央病院 血液内科 部長
篠崎勝則	広島県立広島病院 臨床腫瘍科 主任部長
北村周子	三重県がん相談支援センター センター長
増田昌人	琉球大学医学部附属病院がんセンター長・臨床教授

患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて

研究の目的

特に国民の不足感が強く、必要性の高いがん医療に関して、治療のみならず**療養生活**を含めた患者家族の**自立的な意思決定支援**を含めた、**社会的支援の活用を促す取り組み**を収集・検証し、自治体や医療機関を含めた関係団体向けに**企画立案、実行計画策定、実施準備、評価と検証の各フェーズ**に応じて**参照活用**できるモデルを作成することにより、全国のがん患者・家族の療養生活の質を向上させること。



患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて

本研究にて明らかにすること

地域独自の取り組みとして行われている特色ある社会支援を含めた「**地域の療養情報**」を収集整備しながら、**評価・検証**を行い、
 がん医療や社会支援の情報提供と、地域の特性に応じた社会的支援のあり方に**必要な行動計画**として関係諸機関に対して推奨される施策を、
 モデル地域での**先行取り組み**の成果とともに**提言**を行う。

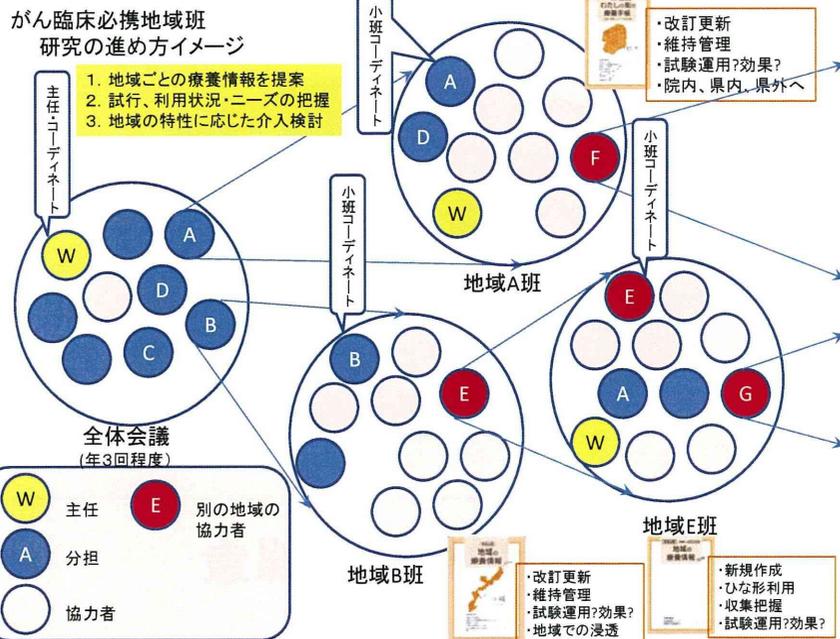
患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて

研究班進捗計画

	つくる					集める		広げる		伝える		使う		患者・家族・国民	
	テーマ出し	ヒアリング	コンセプト	初稿	査読	完成	情報収集	確認	調整	印刷	配布	普及啓発	研修		利用
地域A															
地域B															
地域C															
地域D															
地域E															
地域F															
地域G															
地域H															

試作版 改訂、試行
 評価の軸
 実践G集束
 実践G集束
 評価の多様化
 パイロット増加

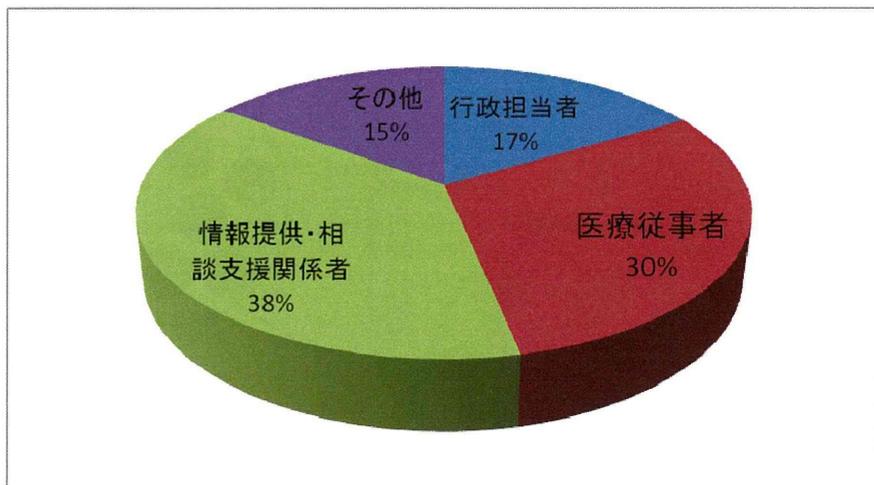
患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて



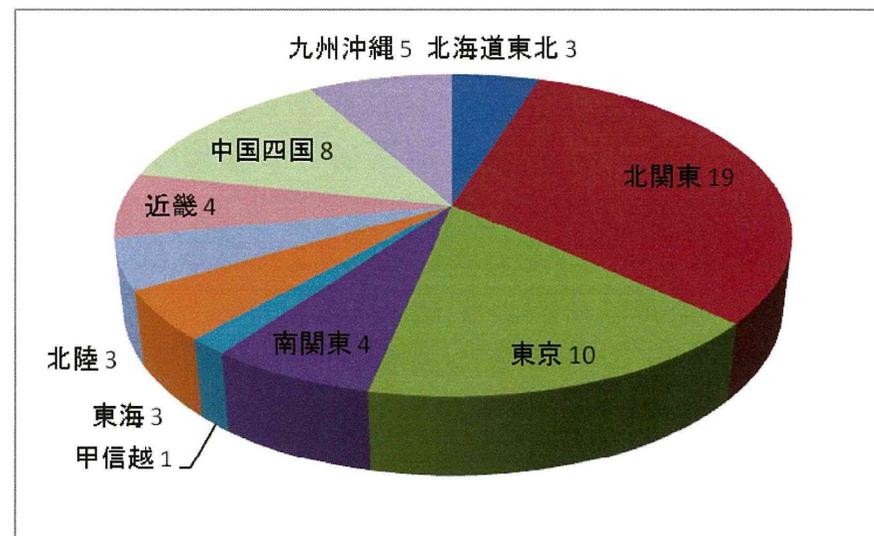
がん臨床研究推進事業 研修会 患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて 地域における情報発信とがん患者支援の提案

- がん患者さんの療養生活の質の向上をめざして、**治療だけでなく療養生活を含めた、地域における社会的支援の活用を促す取り組みを収集し、普及する動きが広がっています。**
- がん患者さんの支援の輪を「**みんなで作る、地域で支える**」ために、どのような取り組みが求められるでしょうか。
- 地域における情報づくりと普及に向けた活動をとおして、**望ましい協働のあり方**について議論を行います。

事前申込み(n=60)



地域(n=60)



なぜ、地域情報？目的は？(案)

- ◆患者にとって 第一義的に「不安の軽減」
 - ・ 情報不足の解消
 - ・ ニーズ把握・活用度の評価・個別化
- ◆医療者・医療機関にとって
 - ・ 情報提供・相談支援のノウハウの蓄積、技術の向上、連携の構築
- ◆国・都道府県にとって
 - ・ 地域向けがん情報提供の向上、関係構築
 - ・ がん対策の均てん化

患者必携「地域の調査情報」の提供に向けて

なぜその地域で評価？(報告書より)

1. 地域における情報介入モデルの実践的な普及デザインと配布のあり方を具体化すること。
2. 有効性および地域住民、専門家、組織のすべてに及ぼされる影響に関するエビデンスを提供すること。
3. がん患者を対象に、平成24年度までにパイロット実施地域以外においても、当研究班で得た知見をもとに、全国レベルで地域における情報介入モデルが円滑に実施されるように積極的に取り組むこと。
4. 政策の方向性を伝達し、情報処方箋の実施が他の主要な政策決定構造に確実に組み込まれるようにすること。

患者必携「地域の調査情報」の提供に向けて

評価のゴール(案)

- ◆患者にとって「不安の解消」「情報の充足感」
 - ・ 結びつくのは、内容か・媒体か・それ以外か？
 - ・ 知ることで、よりよい情報提供・支援につながる
- ◆医療者・医療機関にとって
 - ・ ナラティブな医療者のニーズ把握、患者視点の「補完」ノウハウの蓄積、技術向上、連携
- ◆国・都道府県にとって
 - ・ 地域発のがん情報提供のエビデンス構築
 - ・ がん対策の均てん化
- ◆研究協力者にとって
 - ・ 地域/患者視点の情報づくりからがん対策への道筋を提言

患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて



ご清聴ありがとうございました

患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて

がん臨床研究推進事業 研修会

患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて
地域における情報発信とがん患者支援

研修会 第1部 事例報告

- ・ アイデアシートをお使いください。
- ・ 地域の療養情報に、取り入れたい／取り入れてほしい情報やテーマをお書きください。
- ・ 情報伝達の方法、媒体は何がよいと思いますか。(いつ、どこで、誰が、どのように、・・・)
- ・ 患者必携を普及・活用するためのご提案をお書きください。

患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて

第2部 ワークショップ(15:00～16:25)

進行役・書記・発表者を決めてください。
ファシリテーター(グループ1名)、サブファシリテーター(2グループで1名)が、進行の補助を行います。

- ・ 役割を決めます。
- ・ 2つのテーマに沿って、メモやワークショップシートを参考にしながら、意見交換、課題の共有、提案などをまとめます。
- ・ 最後に、それぞれのテーマでなされた議論のまとめを、3分以内で簡潔に発表してください。

- ・ 質問やコメントを、書きとめておいてください。

がん臨床研究推進事業 研修会

患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて
地域における情報発信とがん患者支援

栃木県におけるがん情報の普及の取り組み ～行政の立場から～

平成23年11月11日(金)
がん臨床研究推進事業研修会
「地域における情報発信とがん患者支援」



栃木県保健福祉部健康増進課
渡辺 晃紀

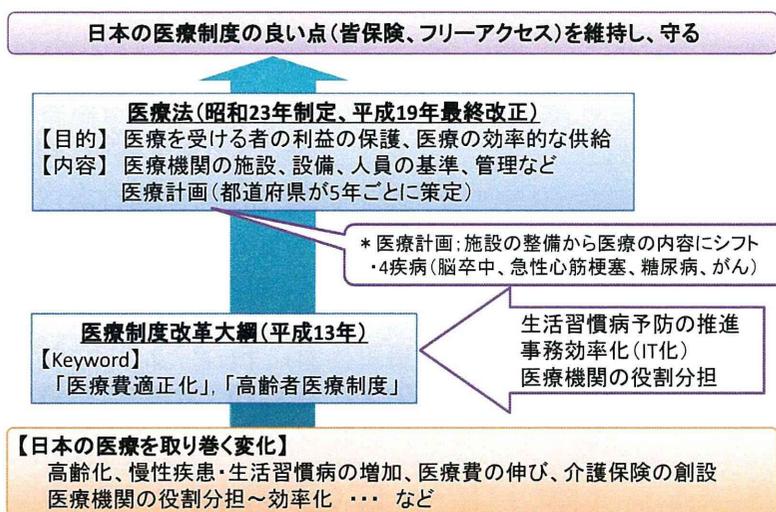
【栃木県について】

【栃木県の概要】

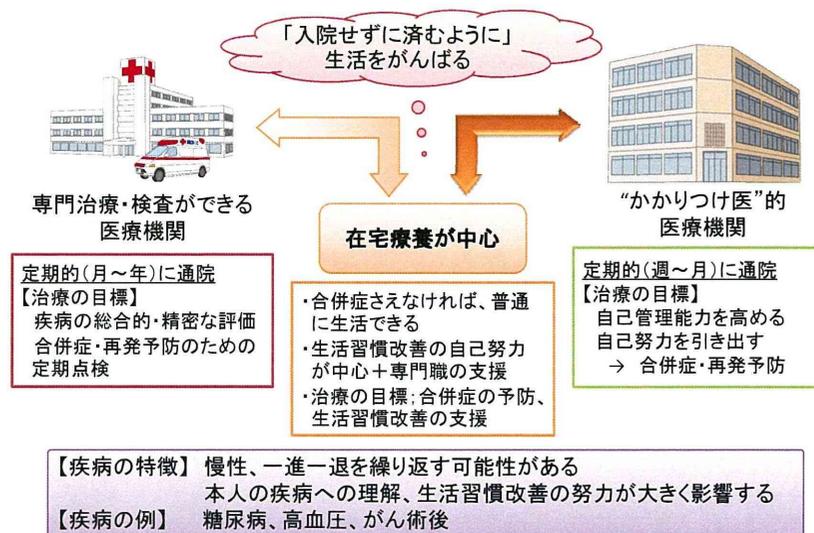
- ・人口 2,001,005人(H23.04)
- ・高齢化率 22.0%(H22.10)
- ・地域 14市12町, 6保健所, 5医療圏
- ・総死亡 19,712人(H22)
- ・がん死亡 5,444人(27.6%)(H22)
- ・医療 人口10万対医師数195.1人(H18)
110病院, 1,461診療所(H22)
6地域がん診療連携拠点病院
2県がん診療連携拠点指定病院
- ・健康問題 脳血管疾患、心疾患、塩分摂取量、肥満
- ・キーワード 日光、那須、いちご、かんぴょう、雷、など



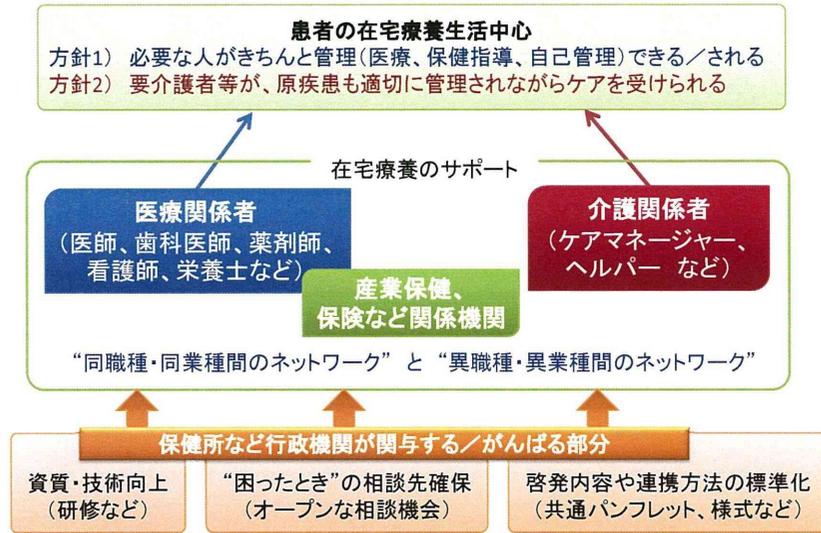
【県の対策～医療連携～】



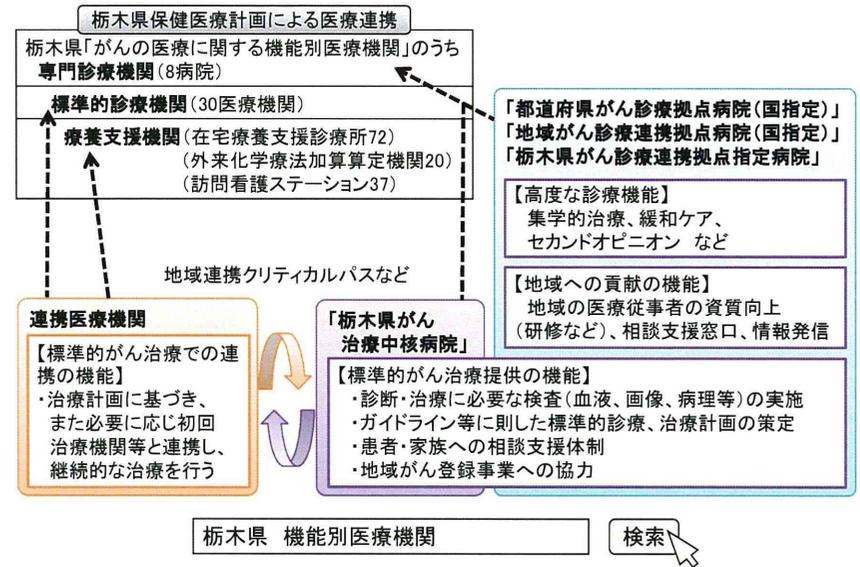
【医療連携のパターン「フロー型、循環型」】



【医療連携の目指す方向性(例:糖尿病)】



【県の対策～がんの医療連携～】



【県の対策～がん対策推進計画～】

【全体目標】

がんによる死亡者の減少

75歳未満がん年齢調整死亡率
人口10万対91.3人(平成17年)
→73.0人(10年以内に20%減)

がんに伴う苦痛の軽減・療養生活の質の向上

治療の初期からの緩和ケアの普及
情報提供、相談支援体制

【個別目標】

- ◇予防の推進
- ◇早期発見の推進
- ◇がん医療の充実
- ◇相談支援及び情報提供の充実
- ◇がん登録の推進
- ◇がん研究の推進

アクションプラン
・特に喫煙対策
・検診受診促進
・医療、相談

【県の対策～がんの相談支援及び情報提供～】

相談支援センター

	県東・央	県南	県西	県北	両毛
相談支援センター	2病院	2病院	1病院	1病院	2病院
国立がん研究センター 研修(1)修了の相談員数	15人	12人	2人	4人	15人

(出典:平成22年度がん診療連携拠点病院現況報告書)

情報発信

H23.2～販売配布 関係者への周知

「患者必携」

H23.8.13～運用開始

「がん情報とちぎ」

地域の療養情報

がん情報とちぎ

検索

【在宅療養を支える関係者・関係機関】



【まとめ】

1. 医療の質や療養生活の質の向上を目指し、医療連携などの面で、行政も医療に積極的に関与することが求められている。
2. 地域での医療連携推進のために、同業種間のネットワーク、異職種・異業種間のネットワーク構築が有効である。
3. 「患者必携」など医療・療養生活の質の向上のための情報は、ネットワーク構築のための研修題材や共有する情報としても活用していきたい。

栃木県におけるがん情報普及の取り組み

— 都道府県がん診療連携拠点病院として —



<http://www.tcc.pref.tochigi.lg.jp/>

栃木県立がんセンター 病院長 清水 秀昭
 同 相談支援センター 相談員(保健師) 長野 泰恵、佐山由美子
 所長 児玉 哲郎
 栃木県保健福祉部健康増進課 渡辺 晃紀

がん臨床研究推進事業 研修会 2011年11月11日

— 栃木県における取り組み —



対象: ①患者さん・ご家族 ② サポーター

我々のサポーターは行政(県庁担当部署)

◇平成22年度 取り組み

- ① 市民公開講座『がん「患者必携」—栃木の取り組み—』開催
2010年11月7日(日) 栃木県立がんセンター 講堂
- ② 患者サポーター職種への情報提供

◆平成23年度 計画

- ① 患者/医療者へのアンケート調査
- ② 患者サポーター職種への研修およびアンケート調査
- ③ 「患者必携:地域の療養情報 試作版(栃木)」改訂



「患者必携」普及 から支援へ



本来の目的は、
配布ではなく、
 患者さんの知りたいことを明らかにして、
 地域で支える患者支援の輪を構築し、広げる！

がん患者との合い言葉
“患者必携”

栃木県でも七位一体への動きを！

公開講座の記録媒体による情報普及

ホームページ

DVDの配布



当センターHPをご参照ください。
<http://www.tcc.pref.tochigi.lg.jp/other/19.html>

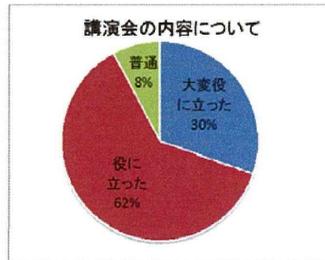
- ・健康福祉センター
- ・相談支援部会参加医療機関などを通して患者・県民へ周知

アンケート調査結果

◎11/7がん患者支援公開講座のアンケート結果

1. 講演会の「内容」について (n=76)

大変役に立った	23
役に立った	47
普通	6
あまり役に立たなかった	0
全く役に立たなかった	0



6. 講演会の周知方法(複数選択あり)

ポスター	9	チラシ	26
新聞	10	広報	0
県のホームページ	0	がんセンターのホームページ	3
メール	3	テレビ	0
ラジオ	0	人から聞いた(先生、職場の上司等)	23
その他(学校等)	5		

健康福祉センターとの連携

<提案>

保健福祉部/健康増進課・保健福祉課
県保健福祉センター業務に相談支援部署

- がん相談窓口(保健師の対応)
- 地域ごと、講演会・研修会

◇業務内容

- ・県/地域がん診療連携拠点病院の相談支援センター紹介
- ・がん「患者必携」パンフレット配布
- ・情報収集(「患者サロン」など)

◇研修・人材育成

- ・相談支援業務に関して、県がん診療連携拠点病院相談支援センターが主催する講習会・研修会へ参加

栃木県保健所・健康福祉センター



4疾病5事業の観点から がん情報の周知

健康福祉センターでの説明会 (1)

◇ 県南健康福祉センター研修 2010年 11月4日

—がん対策における「患者必携」の役割、地域での活用方法—

対象: 行政保健師 25名

訪問看護ステーション看護師・ケアマネ 12名

- 内容
1. がん対策における「患者必携」の役割
 2. 試作版でのアンケート結果概要
 3. がん患者支援における各職種の役割

◇ 県東健康福祉センター研修 2010年 12月9日

—介護サービスと医療機関等との連携—

対象: ケアサービス関係職員研修

- 内容
1. がん対策における「患者必携」の役割
 2. がん患者の在宅緩和ケア
 3. がん患者の退院調整と連携

アンケート調査結果(県南)

地域保健福祉等関係職員研修会アンケート

回収 30名

1. 職種



ますか。

さい。

たい。

。

①

②

③

④

⑤

健康福祉センターでの説明会 (2)

◇ 宇都宮市保健センター がんに関する講演会 2011年 9月10日

～予防から治療／がんになった時の対応(患者必携)について～

対象: 市民 94名

- 内容
1. 消化器がんを知ろう
 2. がん「患者必携」の説明／**研究班作成ビデオ供覧**

◇ 県西 健康福祉センター研修 2011年 9月22日

－介護サービスと医療機関等との連携－

対象: ケアサービス関係／地域医療機関／病院職員／行政 研修

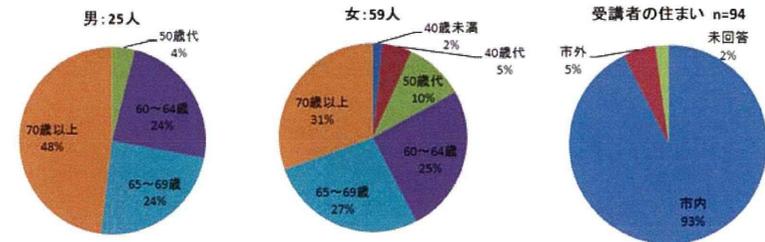
- 内容
1. 退院調整と連携
 2. がん対策における「患者必携」の役割
 3. グループワーク

◇ 栃木県薬剤師会 研修会 予定 2011年12月／2012年1月

がんに関する講演会

アンケート調査結果(1)

1. 受講者 性別／年齢、住まい

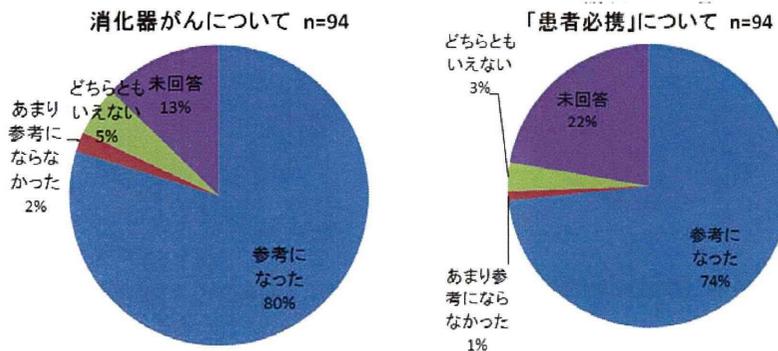


平成23年9月10日(土) 宇都宮市保健センター

がんに関する講演会

アンケート調査結果(4)

4. 講演会の内容

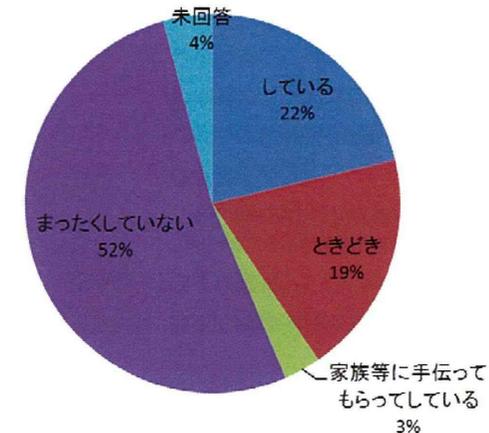


平成23年9月10日(土) 宇都宮市保健センター

がんに関する講演会

アンケート調査結果(6)

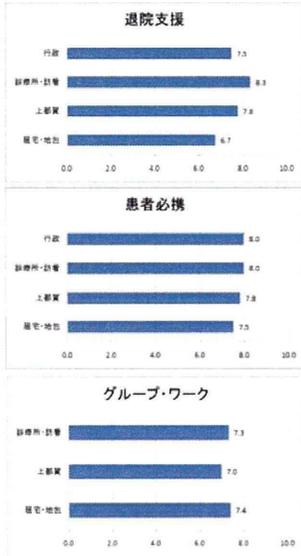
6. ふだん、インターネット・パソコンを利用しているか n=94



平成23年9月10日(土) 宇都宮市保健センター

県西地区 研修評価／自由意見・研修希望

－10段階評価－



自由意見・研修希望

- 多職種の方が集合して、とてもよかった
- 連携を図れる顔見知りの方が地域にいると安心
- 地域の医療、介護資源と病院をいかに結びつけていくか
- 患者の選択された場所で、患者さんらしく生きるためにどのようにサポートしていったらいいのか
- 癌患者さんの実体験、思い、希望も聞けたら
- グリーフケアに関する研修
- がん患者さんに対して、地域からできる支援
- がん患者さんを連携モデルとして精神患者さんの連携の研修会もお願い

県西地区研修 アンケート調査（渡邊班）

ご参加の皆さまへ



「患者必携」アンケートのお願い

「患者必携」は患者さん・ご家族が がんの診療に必要な情報を収集し、整理し、あるいは わからないことをメモしたり、医療者と対話をするときに活用していただくように作成しているものです。お渡したのち、ご自宅で読んだり、書き留めたりするとき、あるいは、定期的に担当医の診察や、看護師・相談員へ面談や電話相談をされるときや、医療連携や療養介護での情報共有のツールとしてご活用いただくことを目指しています。この「患者必携」は、がんにかかった方の役に立つように全国的に普及できるか、検討段階です。アンケートは、さらに良い「患者必携」にする際の資料にさせていただきます。ご協力よろしくお願いたします。

アンケート締切：●月●日（●）までに、同封の封筒に入れて返送してください。

研究実施機関：厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略事業
 「患者・家族・国民の視点に立った自立支援型がん情報の普及のあり方に関する研究」
 （研究代表者 渡邊 清高：国立がん研究センターがん対策情報センター）
 研究協力者：清水 秀昭（栃木県立がんセンター 病院長）

ご送信・問い合わせ先 栃木県立がんセンター 相談支援センター 相談員・保健師 長野 泰恵
 〒320-0834 栃木県宇都宮市緑南 4-9-13（直通電話）028-658-6484

【ご参考】国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報サービス (<http://ganjoho.jp/>)
 「患者必携」掲載ページ をご参照ください。
http://ganjoho.jp/public/qa_links/brochure/hikkei_index.html

*患者必携は PDF ファイルとして図報、印刷できます。また、市販本として3月より書店等で販売しています。

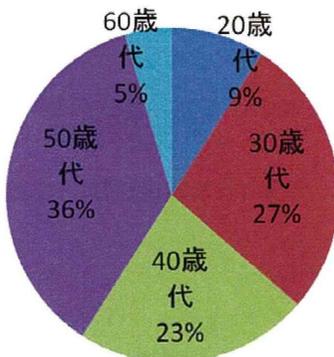
問1) あなたの年齢を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1. 20歳代

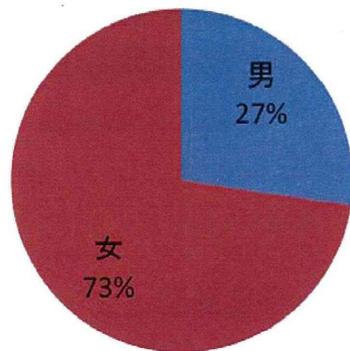
県西地区 研修 アンケート集計結果

回答者(n=22)

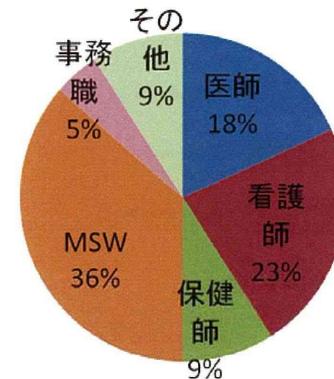
問1)年齢



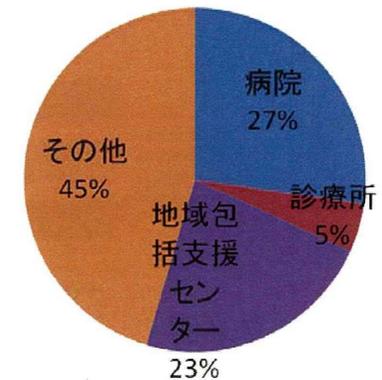
問2)性別



問3)属性



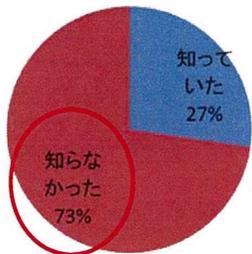
問4)勤務種別



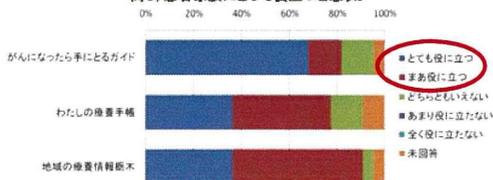
県西地区 研修 アンケート集計 結果

回答者(n=22)

問5) 患者必携を知っていたか



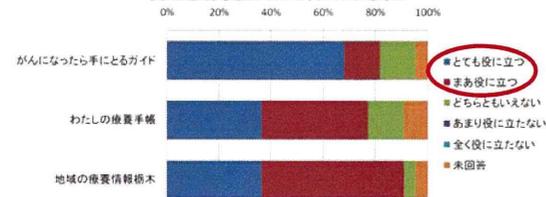
問6) 患者家族にとって役立つと思うか



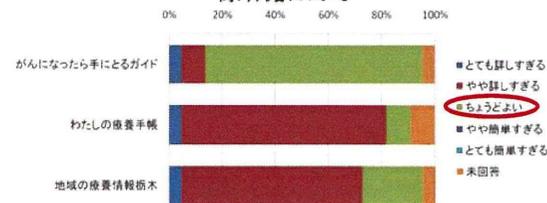
県西地区 研修 アンケート集計 結果

回答者(n=22)

問6) 患者家族にとって役立つと思うか



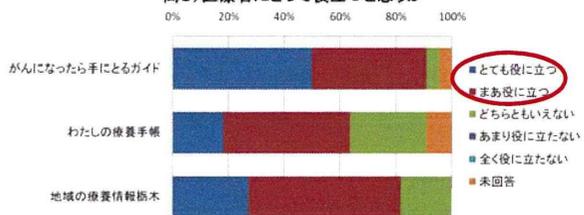
問7) 内容について



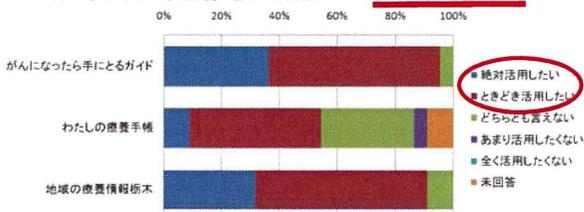
県西地区 研修 アンケート集計 結果

回答者(n=22)

問8) 医療者にとって役立つと思うか



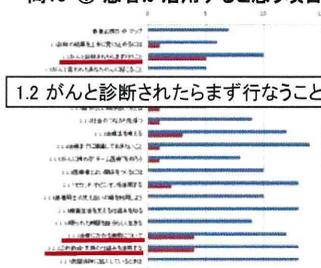
問9) 患者・家族に患者必携に含まれる情報について、説明の時に活用したいか



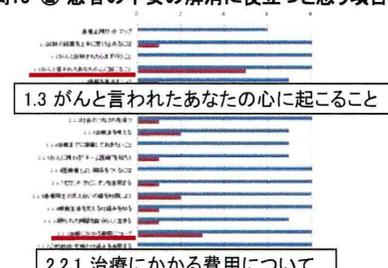
県西地区 研修 アンケート集計 結果

回答者(n=22)

問10-① 患者が活用すると思う項目



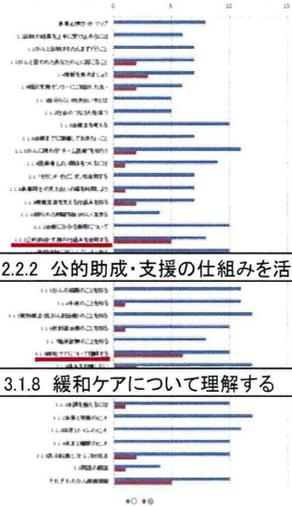
問10-② 患者の不安の解消に役立つと思う項目



県西地区 研修 アンケート集計 結果

回答者(n=22)

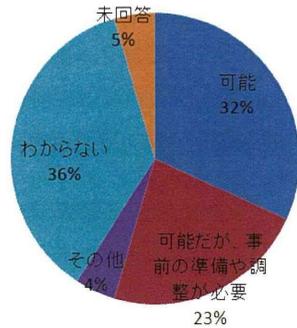
問10-③ 医療者として活用すると思う項目



2.2.2 公的助成・支援の仕組みを活用する

3.1.8 緩和ケアについて理解する

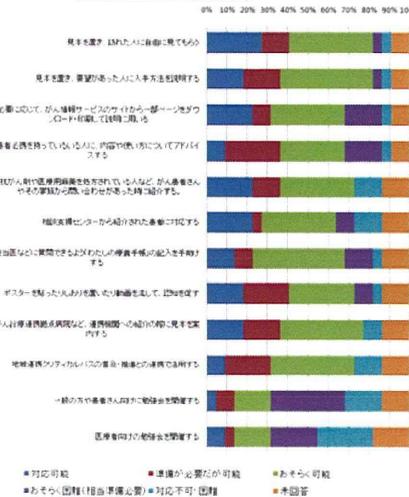
問12) 患者必携の紹介、情報提供は可能か



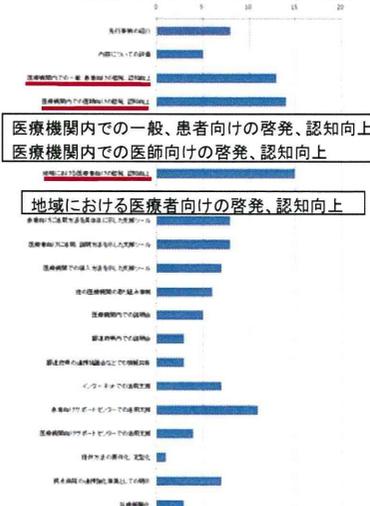
県西地区 研修 アンケート集計 結果

回答者(n=22)

問13 「患者必携」の配布・活用にあたって、対応可能な取り組みについて



問14 効果的だと思われる取り組み項目



県西地区研修 記載欄

問11)

それぞれの冊子に加えた方がよいと思う情報がありましたらお書き下さい。

a) がんになったら手にとるガイド

具体的な調理例、独居の方の対応(特に生涯孤独の方)。意味合いは変わってくると思いますが困っています。全てをご本人がしなくてはならないので・・・。

乳がん・子宮がん(特に)リンパ浮腫に関すること、ケアについて。頭頸部がんの美容面に関すること。女性の患者さん目線での記載がほしかった。

b) わたしの療養手帳

治療と体調の記録は、もっとページを増やして欲しい。

c) 地域の療養情報

県内の患者会・患者サロンの情報、情報の年月日(いつ現在か)の明記、税務署・ハローワークの連絡先

試作版のためでしょうが、連携拠点病院に上都賀が抜けているようです。

栃木県内の患者会情報

県西地区研修 記載欄

問12)

患者必携を紹介、情報について伝えることは可能か

業務上、直接がん患者への支援に携わっていないため、患者への直接の情報提供は困難だが、支援関係者を通して情報提供することは可能だと思われる。

問15) 取り組みの提案

がん診療連携拠点病院に通院中のがん患者を対象に試験配布し
活用状況等モニタリング調査の実施(1病院20名程度)

圏域または市単位でのがん必携普及目的の研修会開催
(一般市民向けと地域支援関係者向け→地域医療連携のツールとして紹介)

ある部位の癌が発症したとして、このガイドは、幅広く書いてあるので他への転移等不安が増大するのでは・・・。それにただ渡すだけでなくその後のフォローが必要。

配布されても手にとった人が理解できるものを